

学校再編（松林小学校と武蔵野小学校、羽村第二中学校と羽村第三中学校の統合）
に関する保護者対象説明会 議事録

令和8年7月5日（日）
午前10時～11時30分
松林小学校 体育館

〔出席者〕 生涯学習部長、生涯学習部参事、
生涯学習総務課長、学校教育課長、教育支援課長、統括指導主事

〔参加者〕 41名

〔議事内容〕 下記のとおり。参加者の発言内容、発言に対する市の回答等は要約して
記載。

【開会】

〔生涯学習部長〕

本日は、「松林小学校と武蔵野小学校、羽村第二中学校と羽村第三中学校の統合に
関する保護者説明会」にお越しくださいましてありがとうございます。

この時間をお借りしまして、市がこれから進めようとしている公共施設の再配置
について、学校の再編を含む、これまでの経過等を簡単に御説明します。

市では、昨年9月に「公共施設再配置構想（たたき台）」を公表しました。これ
は、今後、公共施設の総量を30%程度抑制して、持続可能でより良い施設サービ
スを維持していくためです。

学校教育施設についても公共施設の一つでありますので、この「再配置構想（た
たき台）」の中で、具体的な方向性を示していますが、学校教育施設再編の目的は、
公共施設の総量を抑制することではなく、あくまでも「子供たちのより良い教育環
境を整備し、学校教育の質をより一層向上させるため」です。

教育委員会では、この「再配置構想（たたき台）」に先立ち、令和6年2月に、
「これからの羽村市立学校の在り方について」を公表し、学校再編についての教育
委員会の考え方を示しています。

話しを「再配置構想（たたき台）」に戻しますが、昨年9月に公表した後、「再配
置構想（たたき台）」の内容について説明し御意見を伺うため、市民の皆様を対象
にし、市主催の懇談会を6回、教育委員会が主催し学校教育施設に内容を絞った懇
談会を2回開催しています。

その後、今年3月には、寄せられた御意見を踏まえ内容の一部を修正した「公
共施設再配置構想たたき台 Ver.2」を公表し、市主催の懇談会を3回、オープンハ
ウス型の説明会を2回開催しました。

こうした経過を踏まえ、市では、7月1日付けて「公共施設再配置構想（案）」を公表し、現在、今月末までの1か月間をかけて市民公募手続き（パブリックコメント）を実施しています。

教育委員会では、学校再編、特に、具体的な計画を示している4校の統合について保護者の皆様へより分かりやすくお伝えするため、本日も資料としてお配りしていますが、「これからはむらの学校」というリーフレットを作成し、先般、対象となる小中学校及び幼稚園・保育園等の保護者の皆様に個別に配付いたしました。

本日の説明会は、保護者の皆様により御理解をいただけるよう、保護者の皆様を対象に開催させていただくものであります。

本日は、限られた時間ではありますが、時間の許す限りできるだけ多くの御質問等をお受けして、御参加の皆様の疑問や懸念が少しでも解消いただけるようにしたいと考えています。

【資料の説明】

〔生涯学習総務課長〕

リーフレット「これからはむらの学校」に基づき説明

【質疑応答】

〔参加者 A〕

中学校の統合に関して、羽村第二中学校と羽村第三中学校の制服が混在する状況は避ける必要がある。可能であれば、制服或いは制服に準じるものに変更して欲しい。

また、色の指定はあっても、夏はポロシャツ、冬はセーターなど臨機応変に対応して欲しい。ジェンダーの問題、アレルギーの問題等の解決、保護者の負担軽減にもなる。

〔統括指導主事〕

制服に関することは統廃合に関係なく、保護者の率直な御意見であると考えています。ジェンダーやアレルギーの問題等に関しても併せて検討していきます。

〔参加者 B〕

特別支援学級の統合について、現時点で決まっていることを伺いたい。

〔教育支援課長〕

再編にあたっては、特別支援学級の質の維持と充実に努めていきます。

現在、特別支援学級が設置されていない学校も含め、市全体のバランスを考慮し、個別再配置計画（実行計画編）、個別再配置計画（配置編）を策定していく中で検討し

ていきます。

〔参加者B〕

職員間、生徒間、教員と生徒のトラブルが起きた場合はどう対処するのか。

〔統括指導主事〕

児童・生徒間においては交流事業を実施するなど、児童・生徒間で、相互理解を深めながら進めていきます。

教員間に関しても、事前に共通理解を図る必要があるため、先行して学校再編を実施している他の自治体の事例等を参考にしながら進めていきます。

〔参加者C〕

子供たちは安心して登校できるか。

〔統括指導主事〕

登校に対する不安はお子さんにも大人（保護者）にも当然生じるものであると考えています。

児童・生徒の成長と学校生活を第一に考え、その不安を共通理解とした上で、対策を検討していきます。

〔参加者C〕

これまで、制服、特別支援学級、通学路など話があったが、現時点で調整はどこまで進んでいるのか。

〔学校教育課長〕

松林小地区から武蔵野小学校に通うことになると、距離が遠くなる。通学路は重要な問題であると考えています。

低学年の児童が、ギガスクール端末等を含め荷物が多くなっている上に、大通りの横断など実際に歩いて通学できるのかなど、安全・安心の確保、統合に関しての問題ではないが、熱中症対策など、検討していく必要があるため、他市の指針等を参考に検討していきます。

〔参加者C〕

問題点等の洗い出しをしっかりと行い、検討して欲しい。

〔参加者D〕

一番の関心は、通学路に関してである。通学の距離が長い、不審者が多い、地震が多い、重い荷物を持つといった課題がある。親の見守り、登校時間、自転車通学、親の送迎等について検討をしているのか。

〔学校教育課長〕

通学路に関しては、実際に歩いて、様々な視点で確認を行っています。

現時点で最適な方法等について検討中ですが、具体的には個別再配置構想（実行計画編）を策定していく中で、案をお示ししていきます。

〔参加者D〕

通学路で、保護者が見守ることは、難しい状況にあると思う。ボランティアも集まらないと思う。防犯カメラを設置していくことなど、市で何か考えはあるのか。

〔学校教育課長〕

市では、スクールガードリーダーの配置を行っています。

防犯カメラの設置に関しては、防犯対策として、学校の統廃合にかかわらず市全体の安全・安心対策として実施していくものであるので、警察等とも協議しながら検討していきます。

〔参加者E〕

子供が松林小に通っている。

学校に行くまでが心配である。

現状では、松林小には、PTAがあるが、加入率は50%程度。

PTAの委員になる保護者を7人から4人とした。これは、共働き世帯の増加等により、保護者負担を軽減するための措置であるが、統廃合までにPTAもなくなってしまう可能性がある。その場合の保護者に対するアンケートの実施方法を検討しておく必要があると思う。

子供110番を受けていただける世帯が減少、保護者も忙しい状況である。通学に関して心配している。

一つの案として、スクールバスも検討されているとのことだが、松林小は年度当初の4月の2週間程度、集団登校を実施しているが、集合場所には保護者は集まらない。現状で子供のための状況である。スクールバスを進めていく場合には、停留所をどこにするのか課題がある。

防犯カメラの話もあったが、やはり大人の目が必要、そういった方の雇用も検討課題である。PTAが実施したアンケートでは、保護者自らが何かできるかといった点では難しいが、子供の安全のために、費用負担をしても良いといった回答もあった。

〔学校教育課長〕

様々な課題を提示していただきありがとうございます。

現在、コミュニティー・スクールを地域の様々な方々の参画により行っており、このような取組の中に活路が見出せるのではないかと考えている。

〔参加者 E〕

コミュニティー・スクールについて情報提供したい。

年配の方が多い。意欲はあるが、何をしたら児童のためになるのか聞かれるが、PTA も運営が難しい状況にある。コミュニティー・スクールがあるから大丈夫といったことは言えないと思う。

〔学校教育課長〕

コミュニティー・スクールの取組も発足してまだ数年です。様々な視点があると思いますが、市内全校に設置されています。若い方が構成員に加わっている学校もあるので、一つの手段として活用していきたいと考えています。

〔参加者 A〕

部活動については、統合後は生徒数も増えるので復活するのか。

〔統括指導主事〕

部活動の存続については、生徒数の問題と、教員の働き方、生徒・保護者のニーズであったり、様々な要因があります。

全国的に部活動の存続は、かなり難しい現状にあります。

人数の確保というところがクリアされればとのことですが、現在、市として、部活動を地域へ展開していくことを進めています。

ご心配いただいている存続というところについては、放課後等の活動がきちんと行えるようにするための方策として、地域に展開していくことを段階的に進めているところです。

〔参加者 A〕

部活動に関する保護者向けアンケートの実施を考えているのか。

〔統括指導主事〕

すでに一部の団体については、部活の地域展開が進んでいます。

令和 7 年 2 月に、リーフレットを配布、3 月には地域保護者向け説明会を実施しま

した。同時にアンケートをいただくための WEB ページを開設して意見を伺っています。

新たなアンケートを実施する考えはありませんが、地域の皆様、教員、生徒の実態に応じた意見を伺いながら進めているところです。

〔参加者 F〕

3 点確認したい。

1 点目は、通学における、歩道の整備、スクールゾーン拡充の検討状況があるのか。

2 点目は、統廃合では、武蔵野小学校の校舎を使用するとしている。トイレ（和式から洋式）や空調設備の改修などの更新状況は。

3 点目は、学区を変更することによって、通学の距離が短くなるのであれば、それとも良いと思うが見解は。

〔学校教育課長〕

1 点目の通学路については、危険箇所等をチェックしながら、スクールゾーンの設置についても検討していきます。

3 点目の学区の変更については、学区の変更については、リーフレットの Q&A にもありますが、学区の変更は基本的に行わないことを前提に進めています。

〔生涯学習総務課長〕

2 点目のトイレや空調設備の改修についてですが、再配置構想が確定した後、トイレや空調設備の改修も計画し、対応していきます。

〔参加者 F〕

改修をどのように進めていくのか、予算の計上等も含めて検討を進めていただきたい。

〔学校教育課長〕

道路に関する予算に関しては、通学路にかかわらず、市民の安全・安心の確保をしっかりと計画して進めていきます。

〔生涯学習総務課長〕

施設の改修につきましては、この統廃合に関係なく、市全体の施設をしっかりと計画を立て、今後、修繕や改修を行っていきます。

〔参加者G〕

通学路の安全確保を最重要事項として考えて欲しい。

安全が確保されて、子供も安心して学校に通うことができる。それが崩れると、学校の教育理念や教育の質よりも、命にかかわる部分を最優先に考えていただきたい。

〔生涯学習総務課長〕

貴重な御意見をありがとうございます。

〔参加者A〕

プールの授業について、統合に向け武蔵野小学校のプールを改修して実施していく考えか。プールの授業は必要であると考えている。プールの改修予定を伺いたい。

〔学校教育課長〕

松林小学校と武蔵野小学校は、スイミングセンターを利用した授業を実施しています。プール施設の老朽化の問題を契機として実施したが、プール授業の質の向上、専門的な指導等を受けられるといったメリットもあることから、統合後も同様に実施していくと考えています。

〔参加者A〕

授業で市のプールを利用するということは、昔あったような夏休み期間のプールがなくなり、プール授業の回数が減ることになる。授業回数を増やす予定はあるか。

〔統括指導主事〕

水泳の授業は、教育課程の中で実施していくもので、過去も未来に向けても変わりなく実施していくものと考えています。

夏休み期間のプールの開催は市内小・中学校では実施していない状況です。子供の居場所の確保に関しては実態に応じて対応していきます。

〔参加者H〕

プールと通学路に関して意見をさせていただきたい。

これまで、様々な自治体に住んだことがある。

プールの授業は必須ではない。年2回のみで開催とする自治体もあった。東北地方では気候の条件で実施できないこともあった。

羽村市は恵まれていると感じている。冬でも温水プールに行くことができる。

次に、学区について、茨城県つくば市の例では、学区をなくしている。

親の通勤経路、自宅前からバスが出ている、親族が近くに住んでいるなど、保護者は

選択することができた。

羽村市でも統廃合を見据え、学区外の通学を認めるなどの取組を検討して欲しい。

〔学校教育課長〕

プールの授業に関しては、市内に多摩川が流れており、過去に痛ましい事故もあったことから、現時点で水泳の授業をなくしてしまうといった考えはありません。

引き続き水泳の授業ができるよう取り組んでいきます。

学区に関しては、学区をなくしている自治体の取組は把握しています。

一つの視点として、貴重な御意見として検討材料としていきます。

〔参加者 I〕

通学路の検証で歩いて 30 分、他市では 4 kg のランドセルを背負っているとの説明があった。

リーフレットの中に、約 1.5 km、徒歩で 20～30 分程度との記載がある。これは、誰が歩く想定をしたものなのか。

〔学校教育課長〕

実際に歩いたのは、職員であるが、子供の通学に付き添った経験等もあるので、そのような状況を想定しながら行いました。

市内の他の学区の状況等をみると、30 分程度が上限となっています。

ランドセル 4 kg の根拠については、学校再編を先行して実施してる町田市の状況から、端末機、体操着、教科書などを持参することなどを想定しています。

また、子供の成長には個人差があるため、個別の状況等を鑑みながら検討していきます。

荷物の関係は、統廃合に関係なく進めていく課題であると認識しています。

〔参加者 I〕

検討結果については、広報、ウェブサイトなど、方法は問わないが、公表して欲しい。

〔参加者 E〕

通学路に関してだが、社会科見学など、子供が徒歩でいく場合があるはずなので、そのようなデータを参考にしたら良いと思う。

アンケートの実施について、例えば「今日のランドセルは何 kg ですか」といった質問も良いのではないか。

松林小学校には「まつのこ学級」がある。何らかの特性があり、感性が鋭い児童もいるので、その分通学に時間がかかることになるといったことも考慮する必要がある。

集団登校は6年生が先頭で、その次に1年生、2年生と続き列を作って引率していくが、低学年への配慮が必要である。保育園に通っていた際は保育士が引率してケアしていたが、その役を5・6年生が担うことは難しい。大人の見守りが必要がある。

〔学校教育課長〕

社会科見学のデータは、各学校でも捉えているので、参考にしていきたいと思います。
また、アンケートの内容についての意見については、参考とさせていただきます。

〔教育支援課長〕

「まつのこ学級」の児童の通学上の安全について、その特性から、通学に時間を有することも考慮しながら検討していきたいと考えています。

小学校の特別支援学級の児童で通学距離が長い場合は、借上げ自動車の通学支援を行っています。統廃合によって廃止するようなことは考えておりません。

〔参加者Ⅰ〕

通学路に関して、町田市の事例での説明があった。

実際に統廃合を行っている自治体に話を伺ったことがあるのか。

〔生涯学習部長〕

今回の資料の「これからの羽村市立学校の在り方について」の中で、最終的に目指すところを示しています。

これまで、八王子市の義務教育学校の視察を行っており、最終的に目指すものがどのような形が良いのか、研究しているところです。

統合についても、引き続き情報収集をしながら、検討を進めてまいります。

〔参加者Ⅰ〕

通学路の問題も多くあるので、町田市への視察を検討していただきたい。

【閉会】

〔生涯学習総務課長〕

活発なご議論ありがとうございました。

本日いただいた御質問、御意見は、市で整理し、回答が必要なものは、後日、市のウェブサイト等で回答します。

アンケートは任意ではありますが、受付でお待ちしております。

再配置構想（案）に関するパブリックコメントは、アンケート用紙又はリーフレット

に記載の二次元コードからお願いします。

これをもって説明会を終了します。